

# 修行の山旅“村山古道（前編）”20キロ

西 正子

最近話題の『村山古道』。

富士山でもっとも歴史の古い登山道。明治時代廃仏毀釈の難を受け、衰退したこの道が、最近、有志の手により整備され、脚光を浴びている。ガイドブックやネットを見ると、歴史感たっぷり、今の目白にぴったりだ。

というわけで、今回は前半部分。田子の浦から、村山浅間神社までの20キロを歩くことにした。

## ◎田子の浦～広見公園

●2017年4月29日(土) 晴れのち曇り・小雨

●メンバー

島崎 西A 西M 松田 斉藤整 岩田

●コースタイム

吉原(10:00)→田子の浦・砂山公園(10:20)→

鈴川の富士塚(11:00)→広見公園(14:50)

東海道線吉原駅に集合。駅から南方向に住宅地を抜け、まずは出発点の『田子の浦・砂山公園』に向かう。

海岸の波打ち際に立つと、松林の後ろに富士山が堂々と見える。荒々しい波の音を聞きながら、日本一の山を眺めると、身が引き締まるのは、昔の人も私たちが変わるところはない。

休憩タイムの後、めいめい浜石を1個ずつ拾い、『鈴川の富士塚』に納めた。安全登山を祈願した古人の例にならうことは、とても大切だ。

東海道線の踏切を越え、北東方向へ進む。途中までは、旧東海道を行くので、見どころが多い。

江戸から京への東海道で、唯一、富士山が左に見える『左富士』。源平の富士川合戦の跡だった『平家越の碑』。など……。その昔、弥次さん喜多さんもこの景色を見たのだろうか。

『吉原宿』は五十三次の14番目の宿場町。しかし、商店街はGW初日というのに、シャッター

がずらりと閉まり、人影も少ない。6月の大祭には露店が並び、たいそうな賑わいのようだが、そんな勢いは皆無に近い。この日といえば、横から飛び出すネコの足音だってはっきり聞こえるくらい。あたり一面、静まりかえっていた。

しだいに街はずれになる。交通量は減り、空き地と畑が目につくようになる。しかし、空を見上げると「のんびり」している場合でないのが、すぐにわかった。すでに寒気の黒雲が空を覆い、時折、冷たい風が吹き、風が雨を運んできた。たいへん、たいへん・・・！！

傘を出す人、雨具を着る人、全員足早に、初日のゴール『広見公園』になだれ込んだ。

ここまでは海から10kmほど。標高差90m。しかし、車や人の間をぬっての歩行は、なんだかとても疲れた。山とはまったく違う感覚で、たいへんなのかさうでもないのか、正直よくわからない。ただ、足の裏は登山よりずっと痛かった。

広見公園からはタクシーで、富士宮に向かう。浅間神社の総本山『富士山本宮浅間大社』を参拝し、その後は徒歩で本日の宿『富士宮グリーンホテル』に入った。なかなかの道中だったが、明日はまた明日。どうなることやら・・・。

だが、これだけ、さまざま場所でお参りをしたのだから、神パワー100%！！明日も大丈夫と、根拠のない自信を胸に、一同安眠についた。



鈴川の富士塚

## ◎広見公園～村山浅間神社

●2017年4月30日(日) 快晴

●メンバー

島崎 西A 西M 松田 斉藤整 岩田

●コースタイム

広見公園(8:10)→釈迦堂(9:30)→馬頭観音(11:00)→村山浅間神社(12:10)

2日目は、広見公園がスタートだが、その前に園内を散策した。

広大な市民公園の正門階段を上がりきると、突然、真正面に大きな富士山だ。いきなりのサプライズにおどろいた。さっそく、朝イチバンの写真タイムとなった。

園内はきれいに整備されている。古墳や昔の洋館、武家屋敷、民家などが並ぶ様子は、明治村を思い出す。仕事柄であろうか、松田さんは説明書きを熱心に読んでいた。

コースは、基本的に北へ北へと進むが、道が、メイン通りから1本内側に入ったり、高速道路を越えたりと、入り組んでいる。ガイドブックから目が離せない。しかし、昨日と比べ、だいぶ郊外に移動したせいか、交通量も少なく、畑や林が目立つ。牧歌的な風景に、気持ちがゆったりする。

耕作地につけられた道を、富士山目指して、なお進む。

前日とは違い、雲一つない真っ青な空。日本晴れだ。緑の茶畑を前景に、富士山の剣ヶ峰までが見える裾野の広さ、山の高さなど全体から受ける

印象など、私はやはりこれを『表富士』と名付けたい。

『釈迦堂』『八大金剛童子の石碑』『馬頭観音』など、この日もまた、古道にふさわしい旧跡が、道々に配され、よい勉強になる。

田子の浦0m、広見公園90m、釈迦堂170m、八大金剛童子300m、・・・しだいに道の傾斜が増してくる。よくある「登山道までの長い林道歩き」くらいの、微妙につらい傾斜が、ゴールの『村山浅間神社』(490m)まで続く。

村山浅間神社は深い森に覆われていた。小ぶりな社屋だが、手入れが行き届き、ボランティアガイドさんがいる。

話によると、今でこそ、浅間神社と大日堂を合わせ建つ神仏習合の姿が見られるが、その昔、廃仏毀釈の令が出た時は、信者たちが夜闇に紛れ、命がけで山から仏像を下し、ひそかに隠し祀ったという。見つかったら極刑だろうに。昔の人の宗教心のすさまじさには、ほんとうに頭が下がる。

ひとくちに「山に登る」といっても、修行や宗教ならば「登拝」、自然を楽しむのであれば「登山」、さらに、走り上がるのであれば「トレラン」。目的に応じて呼び方が違うのが、山のおもしろさかもしれない。

さて、神社からが、いよいよ本番の山道だ。不明瞭な道に四苦八苦した報告も、各会HPに寄せられている。これはやはり、白井さんの登場を願わねばならない。もし、白井さんが参加となれば、村山古道完登は成功したも同然なのだから。



釈迦堂で休憩



古い道標(全部で8基ある)